

# 図書館だより

## 「西田幾太郎・和辻哲郎と私」

悠久の世界を旅すること三十九年、やっと日本へ帰って来た。というよりは島根に定着しつつある。

私の目的は、完成したのか未完成なのかわからぬ遺跡や寺院、そして出土品の撮影が主なのだが、それにともなう少数民族の取材にもその情熱を注いだ。それにより多くの民族との出会いがあった。全ての出会い、それは時間と空間を表現、風土の中の人間存在に対する表現、空間の軽視出来ぬ自由な表現、自己に忠実に生き、彷徨うことであったかもしれない。

美の哲学者・和辻哲郎がいう大地は無限に動くものであり、静的な美と動的な美に表現することであった。それは絶対に自己の信念を動搖させたり曲げたりしてはならぬ世界であった。

また、西田幾太郎が「生」の哲学者とし



(古代の海上交易港  
前18世紀 ビブロス レバノン)

て明治時代、京都学派の創始的存在であったころ、「善の研究」の中で好んで引用したジオットーの逸話に「いかなる腐木にも新しい生命の芽をふくことができる。けふ最も楽しかりし……」とある。このわずかな一行が私の心深く焼きついたのは言うまでもない。この本を、一時帰国するたびにくり返し、くり返し読みつづけている。

並河萬里

(写真家)

# 敦煌の旅(6)——シルク・ロード

## 敦煌で恋をする

普通の拝観料だけでの見学コースは、大体以上12窟巡りでおしまい。それでは飽き足りない、と特別料金を支払って案内されたのが、とっておきの三つの石窟。まず、盛唐時代の第45窟の七尊像は物すごく立派だ。本尊の釈迦如来を中心には、両脇には最愛の弟子・迦葉と阿難像。続いて二菩薩・二天王が並んでいる。さすがに盛唐文化の面目躍如、こんな人間的姿の仏像を拝んだことがない。しなやかに首を曲げ、白いお肌もあらわ、口にちょっぴり紅をさし、眉を引いたお姿はながら生き仏さまを思わせて魅力満点だ。そこに、わが白鳳・天平仏の源流を見た思いがする。

それにも増して心に突き刺されたのが、初唐時代の第57窟である。その南壁に描かれた“樹下説法図”の右側におわす菩薩は

莫高窟切っての美女にまします。ほんのり朱色を呈した柔はだに輝く金色の瓔珞と冠、それは金粉を漆で固めて塗りあげる撲粉推金という技法で飾られたものだ。首を心持ち左に傾け、伏し目がちに衆生を見おろされるお顔に、かすかなほほえみを浮べられ、余りにも人間的でお優しい。それには、わが法隆寺金堂壁画の観音菩薩の容姿も、レオナルド・ダビンチの名画、モナ・リザの“なぞの微笑”も、到底比べようがない。同行の小汀泰之さんは神職ながら、いみじくも言った。「この仏さまを見たら、これまでの仏さま全部を忘れてしまいました」と。私たちはすっかり“恋”的とりこになってしまったらしい。

幻想の世界から目覚めねばならない。わずか半日の見学であったが、敦煌莫高窟に日本佛教美術の源流が確かにあった。

## ☆野間読書推進賞に角氏(平田市「楯縫文庫」主催)

### —全国優良読書グループには大田市「ゆめの子親子読書会」—

▼(社)読書推進運動協議会が、地域において読書の普及に貢献した団体または個人を顕彰するために設けている野間読書推進賞。この賞を平田市の角秋義氏が受賞されました。角氏は昭和54年、私費を投じて「楯縫文庫」を建設。2年後には、「たてぬい児童文庫」を開設、地域の人々に読書の機会を、研究者には資料や情報を提供してこられました。



(11月4日東京での贈呈式の模様)

▼全国優良読書グループには、大田市の「ゆめの子親子読書会」が選ばれました。

同グループは昭和54年に活動を開始され、地域の方々の協力を得て、63年「ゆめの子文庫」を建設。子供を読書に親しませる活動を続けておられます。

### 平成5年度県読進協功労者表彰

☆嵩見文庫(松江)、古典に親しむ会(江津)、宍道町子供読書会、読書会たんぽぽ(吉田)、掛合町読書グループ、泉サツキさん(仁摩)の5団体1個人が受賞されました。

『再見』とは『さようなら』の意だが、文字通り再びこの地を訪れ、納得が行くまで見学したい、との思いを残し、莫高窟を後にした。

敦煌最後の夜、島根総研グループこぞって夜店街に繰り出した。何んと、昼とは大違い、夜の通りには活気が満ちあふれている。計画経済のしがらみから解かれ、市場経済を謳歌できるからだろう。人々の顔もさまざま、漢族の他にトルコ系の青い眼をしたウイグル族、それにチベット、モンゴルなどの少数民族が雑居している。ふと漢族の店先で忘れえぬ菩薩に出会う。それは特大カレンダーの表紙いっぱい、わが恋人がほほえんでいらっしゃる。即座に、あがなって今は私の書斎で独占中。慈愛のまなざしのもと、この一文を草し終えたという次第である。



(第57窟 菩薩像 初唐)

## 新着案内

### 『イギリス産業革命の旅』

剣持一巳著

日本評論社 2,575円

筆者は、コンピュータ・テクノロジーを中心とする現代の科学技術を研究する技術評論家である。その筆者が、1年間のイギリス滞在中に、多くの産業革命の遺構を訪れ、また、さまざまな文献から時代の背景を描いた。蒸気機関の発明からはじまった産業革命、進む技術革新とともに現れる社会的問題…労働者問題、環境問題。

現代の産業技術の方向性を考える上でも参考になる書である。

### 利用

- 休館日 毎週月曜日・国民の祝日  
毎月末日(月末が日曜日にあたると  
きはその前日)  
年末年始 12月28日～1月4日
- 貸出し 冊数…5冊以内  
期間…15日

### 『闇の光』

佐木隆三著

徳間書店 2,000円

邑智郡で起った「幼女強姦殺人事件」の公判を題材とした裁判小説。つくられた自白調書を基に、足かけ9年、(すべての事実を争う)法廷での闘いが描かれています。



### 案内

#### ●開館時間 9時～18時

子ども室は火曜日～土曜日は13時～18時  
ただし、小・中学校の週5日制導入に伴い、第二土曜日は午前9時から開きます。

島根県立図書館 〒690 松江市内中原町52  
TEL (0852)22-5734  
FAX (0852)22-5728

# 行事予定

12月



1 水 親子で絵本を読む会 15:00～16:00	2 木	3 金	4 土 古文書を読む会(近世) 14:00～16:00
5 日 休館日	6 月 休館日	7 火	8 親子で絵本を読む会 15:00～16:00
9 万葉集を読む会 14:00～16:00	10 出雲國風土記を読む会 13:00～15:00	11 子供読書会 10:00～11:30	
12	13 休館日	14 成人読書会 13:00～15:00	15 親子で絵本を読む会 15:00～16:00
16	17	18 古文書を読む会(中世) 13:30～15:30	
19 子供のつどい 10:00～11:30 13:30～15:00	20 休館日	21	22 親子で絵本を読む会 15:00～16:00
23 休館日(天皇誕生日)	24	25	
26	27 休館日	28	29 年末 1/28～1/4
30 休館	31		

○館内展示 …「地図と地名に関する資料」

1月



1 土
-----

2 日 年始	3 月 休館	4 火	5 水 親子で絵本を読む会 15:00～16:00	6 木	7 金	8 土 子供読書会 (10:00～11:30) 古文書を読む会(近世) 14:00～16:00
9	10 休館日	11 成人読書会 13:00～15:00	12 親子で絵本を読む会 15:00～16:00	13 万葉集を読む会 14:00～16:00	14 出雲國風土記を読む会 13:00～15:00	15 休館日(成人の日)
16	17 休館日	18	19 親子で絵本を読む会 15:00～16:00	20	21	22 古文書を読む会(中世) 13:30～15:30
23	24 休館日 31	25	26 親子で絵本を読む会 15:00～16:00	27	28	29

○館内展示 …「舟舟に関する資料」

※各種講座は講師の方の都合により変更する場合もあります。

編集発行 島根県立図書館 松江市内中原町52 TEL 0852-22-5725

発行日 平成5年11月30日

FAX 0852-22-5728